

マグヌム・オプス

リールが音を立てて止まる。「777」シミュレート上のアバターの白光は、そのエネルギーをアイスの背後のサーバーに吸い取られた。そして引きずり込まれていって、あふれかえるウィジェット群のきらめきの燃料となった。サーバーがまぶしく光り始める前から手ぐすね引いていたスペースには、用心深そうに見えた侵入者がなすすべなく浮かんでいた。

クロエはもっと近くで見ようと身を乗り出しながら、その目を輝かせた。「あなたに夢中になっちゃった。ミクス・ホリッグ」

「言ったでしょう、ミス・バートラム。これが我が『大いなる作』.....マグヌム・オプスであると」

このPDFは100%のサイズで、余白なしで印刷してください。



